

# 公務災害防止事業の推進

## 安全管理セミナーを実施して

埼玉県川越市消防団

### 1 はじめに

川越市は、縄文時代の初期から人々が住み集落をなしていたといわれており、このことは、市内から発見されている貝塚などから明らかになっています。奈良、平安の頃からは次第に要衝となり、長祿元年（1457年）には、太田道真、道灌父子によって川越城が築かれ、江戸時代には、江戸城の北門の護りとして重要視され、産業、経済、文化の発展も著しく「小江戸」といわれ繁栄しました。

明治4年の廃藩置県とともに川越県、同9年に埼玉県の一部となり、明治22年4月1日の町村制の実施で川越町が誕生しました。大正11年12月1日には仙波村を合併して県下で初の市制を施行、その後も合併を繰り返し、面積109.16km<sup>2</sup>、人口も10万人をこえ県西随一の都市となりました。

その昔、城下町として発展した川越市は、市内の随所に重要文化財が大切に保存されていて昔の面影をしのぶことができます。また、近年、首都圏の衛星都市として重視され、人口の増加とともに、要所に大規模工場を誘致する工業都市としても活気ある発展を続けており、このよ

うな情勢に対応するため総合的都市計画が推進されています。

### 2 川越市消防団の沿革

終戦後の改革を経て、昭和22年4月川越市消防団が発足しました。その後、昭和30年4月の市村合併で連合消防団となり、昭和35年4月1日に改組して、1団本部、12分団で構成する現在の川越市消防団となりました。また、平成16年4月1日に女性消防団員20名を採用するにあたり、定数を325名に改正し、現在に至っています。

平成22年10月現在の川越市消防団の団員平均年齢は36.4歳で全国平均より2歳ほど若く、日々の災害防ぎょ活動はもとより、訓練、火災予防広報、地域の活性化等に積極的に取り組んでいます。平成20年3月には日本消防協会より「まとい」を受賞し、更なる飛躍を目指して、団員による「活性化検討委員会」を組織し、種々、検討を重ねています。

### 3 安全管理セミナーを実施した経緯

川越市消防団は、前述のとおり比較的若い団

員が多いためか使命感が強く、災害時には危険を顧みずに活動する嫌いがあり、また、ポンプ操法等の訓練時には、情熱的に取り組む一方で無理をし過ぎる傾向があり、消防団員の公務災害が平成19年度から平成21年度の3年間で7件発生しました。

幸いにも重大事故は発生していませんが、その逆にヒヤリハット事例は数多く見受けられます。この現状をハインリッヒの法則に当てはめれば、いずれ重大事故が発生することが推測される状態でした。

我がまちの安全・安心を守るために活動している消防団員が、負傷若しくは死亡する事例はあってはならないことであり、川越市消防団として公務災害を防止する対策を立てなければいけないという危機感を常に抱いていました。

もちろん、これまでも各種行事や研修時に安全管理の重要性を説いてはいましたが、なかなか

周知徹底することが難しい状態でした。そこで、毎年3～4回実施している団員研修の機会を利用し、消防基金の公務災害防止研修事業の一つである「安全管理セミナー」を実施し、安全管理についての重要性や専門知識、取り組みなどを学んでもらうこととしました。

#### 4 安全管理セミナーを実施して

そのような経緯から、平成22年4月17日「消防団員辞令交付式及び団員研修」時に消防基金から派遣された関根弘氏を講師として安全管理セミナーを実施し、今回は、川越市消防団の役員及び新任団員計160名が受講しました。

災害現場や訓練時に管理監督的な立場になり指揮を執る消防団の役員にとっては、個別の活動事例により危険性や安全管理の方法など具体的に学ぶことができ大変有意義なものになりました。また、新任団員にとっては、これから消



講演者

防団活動をスタートする以上、必ず訪れる訓練・災害現場での危険について、予め基本知識や危険回避の方法を習得でき、この上ない危険予知訓練になりました。

今回の研修を通して、安全管理の重要性を再認識したことは言うまでもなく、受講した消防団員一人ひとりが今までとは違った角度から災害時の活動や訓練などを見ることができるようになったことは、セミナー終了後のアンケートから読み取ることができました。

このことは単に安全意識が高まっただけに留まらず、有効な訓練の実施や迅速かつ効率的な火災防御活動にも一役買うであろうと期待しています。

## 5 今後の取り組みについて

今回研修を受講したのは役員及び新任団員に限られたため、川越市消防団の半数以上が、まだ受講できていない状況です。そのせいか、残念ながら今年度も公務災害事案が2件発生して

います。

しかしながら、昨年度の同時期と比較して減少傾向であり、さらに今年度、埼玉県のパンプ操法大会が開催されるにあたり、各分団ともそれに向けた訓練が日夜行われたことを鑑みれば安全管理セミナー開催の効果が大きいにあったと思われま

す。当然のことながら、今後も公務災害の防止には全力を挙げる必要があります。

それには、消防団員は消防活動が生業ではないことにも目を向けなければいけません。団員はそれぞれの仕事が終わった後に夜遅くまで訓練を行うことも多々あり、更に災害出動という、いつ何時発生するか分からない事態にも対応しなければなりません。

このような危険因子が多数混在する中で公務災害を無くしていくには、今回の研修で学んだことをステップにして、さらに我々一人ひとりがレベルアップした安全管理をいかにして求めていくかに懸っていると考えています。



講演の様子



受講者